

在 自 環 境 を 守 る 会

●組織の活動面積 4,549a ●組織の構成員数 約36名

●活動内容 地域資源（農地、農道、水路、ため池等）の保全管理・質的向上

●作業の様子

溜池草刈り



溜池、仕掛け水路浚え



地域とのつながり【五穀豊穡祭り練習】



● 組織の紹介

在自環境を守る会は、津屋崎小学校沿いの国道495号線より山手側、64haの水田農地の保全活動を実施している組織です。

当地では、字名に浦と言う字が残っている様に、昔は集落近くまで海が迫っていました。非常に土壌の状態が悪く、地名の字を荒地（あらし）と書いていたそうです。先人達の弛まぬ努力で現在の豊かな農地が出来たのだと思います。

小さな河川しか無い当地では、3カ所の溜池の水で、水稻を作付けしています。一滴の水も無駄にしない為に、溜池・水路の整備・草刈が重要です。しかしながら高齢化が進み、稲作農家の数も少なくなっているのが現状です。

現在、稲作自体は機械化が進み人手は掛かりませんが、溜池・水路の維持管理には多くの人手を必要とします。在自地区では、五穀豊穡を祝う祭りの指導練習を、若年層から高齢者までが一体となっていり、連帯感を強めています。この様な活動で絆が培われ、溜池・水路の整備には地域総出で行うことが出来ています。

水田は第2のダムと言われる様に、異常気象が多くなった現在では、被害を少なくし、また海を豊かにする効果も持っています。

今後とも、地域の環境・豊かな農地を守るため、頑張っていきたいと思います。